

語力があつたらいいのという思いと、世界の公用語でもある英語の重要さを感じました。もし、英語を話せれば言葉の壁をこえたつながりを持つことと思います。それには、タイの学生が遊びに来てくれたような外国との関わりが大切だと思います。

そこで、私は、つくばみらい市も外国との姉妹都市の関係を持つことを提案します。外国の姉妹都市があれば、その国の人に来ていただいて授業を開いてもらったり、ホームステイや中高生の交換派遣、それぞれの国の文化交流までもが可能になると思います。また、さまざまな国の文化を知ることでも他の国に興味を持ち世界が広がり、世界で通用する国際的なつくばみらい市へと発展させていくことができると思います。

【市長答弁】
茨城県内自治体の姉妹都市締結状況をみますと、44市町村のうち外国と姉妹都市を提携している市町村は21市町村です。交流の内容は各市町村さまざまですが、行政視察団をお互いに派遣して交流を図ったり、中学生派遣や中学生受け入れを実施している市町村もあります。

当市の友好都市締結事業ですが、今年の1月17日に埼玉県伊奈町と、当市としては初めてと

なる友好都市の提携を結んでいます。これからも、国内での友好都市提携を進めていきながら、併せて海外との姉妹都市についても進めていきたいと考えています。

ただ、他の市町村より伺った話によると、海外の都市との姉妹都市提携については、行政が主導して、市民の交流が何も無い都市と締結すると、締結しただけで、その後の交流が途絶えてしまうということもあると伺っています。

現在、当市に住んでいる外国人の方は今年の5月末日現在で、327人です。市としては、海外との姉妹都市を提携する前に、このような市内の外国の方と市民とが交流出来るようなことを考え、その人たちの母国と国際交流に発展していくようなことが出来ないかを調査研究している状況です。

今後は、市内の外国に精通した人の協力を得ながら、海外との交流事業についてどのようなことが出来るかを検討してまいりたいと考えています。いずれにしても、国際交流とは、外国語が話せることや外国の文化を理解することも重要ですが、自分たちが暮らすこの日本の方の文化を理解して、正しく外国の方に伝えることも重要である

と考えます。互いの異なる文化を尊重しあいながら共に生活することが出来る、真に国際感覚を持った人材の育成が重要であると考えます。

河川などに不法投棄されたごみの処理について



わたなべ 渡辺 智士 議員 3年
(伊奈中)

市では、国際的な視野を持つ人材を育成するために、市としてできる「国際交流活動」と「国際理解教育」を進めてまいりたいと考えます。

市内に不法投棄された電化製品など大きいごみはどのように処理されているのでしょうか。

【市長答弁】
つくばみらい市を流れる鬼怒川・小貝川のような大きな河川の管理については、国土交通省が行っています。

国土交通省では、堤防の見回りに合わせ、河川敷の不法投棄を監視するとともに、不法投棄があった場合は、速やかに回収を行っています。また、河川の管理や不法投棄されないために、毎年数回の草刈りを実施しています。

市でも、鬼怒川・小貝川堤防の一部で市の道路として利用している約24kmを、国土交通省と合同で草刈りを実施しています。他にも、毎年7月に河川環境の保全・再生を図るため、鬼怒川・小貝川クリーン大作戦を実施し、本年も7月13日に地域の皆様とともに実施しました。次に、河川以外の場所への不法投棄についてお話しします。交

差点付近の道路沿いなどには、車の窓から投げ捨てられたと思われる、食べ物や容器や、空き缶、ペットボトルなどを目にするところがあると思います。そういった小さなごみの、いわゆる「ポイ捨て」から、家具や家電製品などの大きなものまで、道路沿いなど公共の場所に不法投棄されたごみは、市から業者に委託し、定期的に見回りをしていて、見つけ次第回収しています。また、通報により市の職員が回収することもあり、たくさん費用をかけて、処分している人によるもので、罪悪感がある人ならいはずです。

また、ごみの「ポイ捨て」を無くそうと「市内一斉清掃」を、5月30日の「ごみゼロの日」に近い日曜日と11月末日の日曜日の年2回、市民の皆様のご協力を得て、実施しています。

「ポイ捨て」と軽い言葉で表現されますが、「ごみの不法投棄」であり「犯罪」となり得る行為であります。

子どもたちに、善悪の教育をすべき大人が「不法投棄」や「ポイ捨て」をしてしまうのは、大変に恥ずべき行為だと思いますので、すぐにやめていただくように、今後も活動を続けてまいります。